

Sea Breeze 81 湘南学園は、創立81年です

90周年に向けてのステップ
理事長・学園長・同窓会長座談会
「メダキン会」ソーベル永井頼子

SEASIDE Web は、湘南学園同窓会で検索 <http://shogak-doso.org/>

ベトナムで「普通じゃない」を実践する

“学生から一番喜ばれる学校”づくり

ひので日本語センター校長 遊佐英寿

「インディ・ジョーンズのような冒険家になりたい」普通のことは書きたくないと思ったのでしょうか。これは小6最後の文集“松ぼっくり”に書いた将来の夢。当時大好きだった映画の主人公とともに、実際に教師であり考古学の研究者だった父からの影響も大きかったと思います。教師になることを決意したのは大学の卒業間近。留年した上に就職も決まっておらず、しまいには海外で働くなどと言い出したので、周りの人からはさすがに呆れられました。

ベトナムとの出会いは、ほどなくして訪れた卒業旅行のこと。初めて訪れたベトナムは、異常なまでにエネルギーにあふれ、日本の常識とはかけ離れた世界でした。それから12年、現在はベトナムでの日本語教師活動も9年目、自身の学校を持つてからは4年目を迎えています。普通ではないことに憧れ、日本とはまったく違う世界に飛び込んできたのですが、ここでは実に、日本の「普通」を実践する日々が続いています。

当校のモットーは、“ベトナムで一番学生から喜ばれる学校”をつくること。経済発展著しい現在のベトナムですが、サービス業の概念はまだまだ普及しているとは言えません。そんな中、ベトナム人のやり方を尊重しつつも、当校は日本人経営という特徴を生かし、提供するサービスは日本式を重視しています。教科書や教材もすべて学生に合うようにオリジナルのものを作成し、またベトナム人教師への教授法指導なども行っています。さらには日本人教師自らが街頭でピラ配りに立ったり、毎日登下校する学生への挨拶を行ったり、授業開始前には日本人教師自らが校内清掃を行っています。それらのことは日本人にとっては「普通」の企業努力。しかし、ここベトナムでは、それらは実に「普通じゃない」こととして、人々の目に奇異に映り、時に人々に驚きと感銘を



与えます。

現在は日本人教師4名、ベトナム人教師15名、事務スタッフが3名となり、学生数においても、百数十名程度で始まった当初から現在は450名を超えるまでになりました。まだまだ前進を始めたところですが、これからもベトナムの人々から驚かれるようなことをしながら、冒険をしながら、当校のモットーを追求していきたいと思っています。

また、私個人としては、先日40数年間の教師生活を引退した父と同じく、この職を全うし、父より1年でも長く教壇に立ち続けたいと思っています。それが今、確かに抱いている目標です。

遊佐英寿 (ゆさ ひでひさ)

小中高12年間を湘南学園で過ごす。1997年卒業。
2002年 立命館大学経営学部卒業。
2005年～ ベトナム、ホーチミン市にて日本語教師として活動。
2011年 「ホーチミン市・ひので日本語センター」を設立し、校長も務める。





理事長
辻 彰彦



学園長
仲本正夫



同窓会長
渡邊和彦
中1957年卒

「チーム湘南学園」が見せた結束力

高田 創立80周年記念事業は、成功のうちに終わることが出来たのではないかと思います。が、終わりはまた、始まりのときです。皆様には、90周年、さらには100周年へと続く、次のステップに向けた展望などをお聞きしたいと思います。

辻 そうですね。80周年記念事業は、多くの方々のおかげ、いろいろな力が結集して成り立ったもの、と認識しています。つまり「チーム湘南学園」の結束ですね。プロジェクトは確かに“船頭多くして船山に上る”の状態のほでどうなるのか、という時期もありました。しかし、最終的には、皆が同じ方向を向いて一体感が出せたイベントになったのではないかと思います。

仲本 理事長が言われた通りなのですが、もともと「チーム湘南学園」という母体が出来たきっかけは、同窓会の方々の努力の積み重ねにあったんですね。チームは学校法人、PTA、後援会、同窓会で構成されていますが、この4団体が、4の力、ではなく、倍の8の力を出せたことが大きかったですね。

渡邊 いろいろと意見の食い違いもあってなかなかまとまらず、チームの中の温度差を感じたこともあったですね。でも、だんだんと近づくにつれ、協力態勢が出来上がってきた。最後は「小異を捨てて大同につく」ですか、意見の違いはあっても、大きな目標のために皆が一致して行動する姿勢を感じましたね。

高田 なるほど。そうしたことを経て、次へのステップに向けて“見えてきたもの”は何でしょうか。

辻 子供たちを育てていく、という視点で言えば、やはり、大人が“演出家”にならなければダメなのかな、という面は見えました。つまり、今の子供たちは“受身”であることですね。だから大人、教育者が仕掛けてあげて、そこから子供たちを動かす、ということですね。

仲本 私が感動させられたのは、平尾(昌晃)先生にしても、尾高(惇忠)先生にしても、プロのこだわりといいますか、良いものをつくるためには妥協がないこと、だったですね。私などはこれくらいでいいかと思うレベルをはるかに超えた音楽祭となりました。

渡邊 湘南学園という学校は、何かあるとき、取り巻く多くの人たちが、しっかりと支えることができるころなのだな、ということを感じました。それは、この先も続いてほしいですね。

少子化時代を生き抜く

私学の独自性は？

高田 かつて学園には音楽を軸とした芸術コースがあったように、これからますます、進むだろう少子化社会にあって、私学が生き残るための独自性についてはどうでしょうか。例えば古典芸能や民族舞踊のコースを新設するとか……。

仲本 どういう学園づくりをしているか、ということは重要な問題です。

私は今の学園がすすめている総合学習の分野にいいものがあると思っています。

高田 総合学習ですか。

仲本 そうです。身近な課題について主体的に探求する力を育てる学習ですね。小学校でいうと、例えば冬の活動として、スキースクールではなく、豪雪地帯に向向いて雪国の暮らしを直接体験、見聞させている。高校生の修学旅行も研修旅行と位置づけ、各地域に分かれて出かけ“民泊”により、地域の人たちと触れ合う活動をしています。総合以外にも、例えば幼稚園から小学校・中高と全学で盛んな合唱も湘南学園の大事な教育活動のひとつだと思います。

辻 和太鼓の音などは魂を揺すられます。やはり、日本の心、日本人のDNAが刺激を受けるのでしょうか。伝統的なものの継承の大切さを感じます。教育の環境は、変わっていくものだとしても、変えてはいけぬものもあると思います。そのあたりは見極めておきたいですね。

仲本 小学校では体育祭を「たいいく表現まつり」といっていますが、それは、各学年で「花笠踊り」などの民舞を踊るからです。また、新しくできたカフェテリアで始まった「食育」も大事です。保護者の願いである安心・安全の食、日本の食が持つ素晴らしさを、子供たちにしっかり学んでほしいと思います。

高田 今後もさらに発展させて豊かな心づくりに役立ててほしいですね。
渡邊 学校教育というものは、世の中の変化を無視しては出来な

そして…次のステップへの課題



司会

構成



高田和男 高1965年卒 佐藤彰雄 中1960年卒

ね。変化を無視してやっていたら取り残されるだけです。だから、この学校が将来まで続くためには、世の中の要請を見極めなくてはならないでしょうね。

高田 世の中の要請はどんなところにありますか？

渡邊 やはり、世界の動きを見ながらの学校教育でしょうね。国際教育の大切さを感じます。外国の異文化に触れつつも、日本の伝統と文化を守ることが出来る、グローバルなマインドセットの必要性ですね。

仲本 なるほど。

渡邊 日本の高校生は概して幼いですね。社会勉強をしていないから、結果、就職すると企業がまた、勉強をし直させている。社会で起きている問題を高校生のころから意識させ、教育していくことが必要なのではないかと思います。

仲本 例えばどういう問題を？

渡邊 それは原発問題でもTPP問題でも、何でもいいでしょう。大切なことは、問題意識を持つ、意見を言う、ということなのですから。

常に議論が出来る場でありたい

高田 少子化社会という頭の痛い問題を抱える一方、世の中はまた、命が軽んじられる、殺伐とした時代に入っています。暴走の低年齢化など対岸の火事ではないですね。

仲本 そうですね。幼稚園から中高の総合学習へとつながる「命の尊さ」に関する教育は大切にしています。

渡邊 学校は子供たちが大人になる

大事な過程を預かる場として責任があります。昔のように不足しているものがない時代になって、子供たちは内面から沸きあがるエネルギーをどこにぶつけるか。その意味で部活動の大切さを感じます。スポーツでも音楽でも、また書道でも何でも、エネルギー燃焼の場として役立たせたいですね。

辻 社会と接する場、外部の人たちと協力し合う場として、早い段階からボランティアが出来るような環境をつくりたい、と私は思っています。

渡邊 それはいいことですね。人間形成にも役立ち、大学進学などにも大切なことと思います。

高田 ボランティアというと日本人は、どこかテレがあり、概してヘタクソなどがあります。

辻 精神はあるんですよ。だが、うまく表現できない。そのあたりを磨く必要はありますね。

仲本 少子化に関していえば、ここ数年、幼稚園、小学校の募集が厳しい局面にあります。社会全体の厳しさ、経済的な厳しさもあり、学費の高い私学はどこでも募集で大変な苦勞をしています。

高田 対策はどうなのでしょう。

仲本 幼稚園は「預かり保育」、小学校は放課後に自分の好きなことを学べる「アフタースクール」など、子供たちを放課後も預かれるようにしてきています。

辻 そういうことをしていることを世に知らせなければダメですね。

仲本 まったくその通りです。ホームページなどでどんどん宣伝してい

きたいです。

高田 良い面やこれからの課題など、いろいろお話いただいて中身のある内容になったと思います。最後に皆さんが次の10年間に実現させたいことは何でしょう。

辻 「チーム湘南学園」を崩さないことです。これは簡単そうで一番難しいのでは、と思います。この10年の間に維持できれば教育も何もすべていい方向に進むと思います。

渡邊 学校が将来に向けて何をするか、ということ常々議論している、にぎやかな場をつくってほしいですね。発言があれば必ず、そこから何かが生まれると思います。

仲本 そうですね。学園を常に外に向かって開いておきたい。教職員の持っている力量だけではとてもできないことをチーム湘南学園の力で実現したということが今回80周年の、一番大きな教訓だったと思っています。学園関係者の皆さんの様々な知恵や経験を伺い、議論していく場をつくってほしいです。

辻 同窓会の皆さんにはいつも“うるさいオヤジ”であってほしいわけですよ。

高田 皆さん、本日はお忙しい中、ありがとうございました。



撮影：立川元彦

11月15日 記念式典



辻理事長ご挨拶



幼稚園 太鼓演舞



小学校 合唱



チーム湘南学園手作りのキルトタペストリーを背に
中高吹奏楽部演奏

11月16日 クラシック音楽祭



小川尚子先生とともに学園歌コーラス隊



尾高先生 篠塚先生の連弾

ホームカミングデー



卒業生・在校生作品展



山本宏一さんによる東日本大震災記録展示

たくさんのご来場ありがとうございました

11月17日 ポピュラー音楽祭



吹奏楽部演奏



平尾昌晃チャリティコンサート



先生方もがんばりました！



平尾さんに感謝状贈呈

ホームカミングデー



グルメブース



同窓生作品 展示即売会



カフェテリアにて同窓生歓迎会



年代別クラスルームで歓談

撮影：鈴木哲夫／村上一彦

先達の足跡を学び前進しよう

内藤喜嗣

高1954年卒

湘南学園同窓会顧問



昨年の創立80周年記念事業として建設された「記念館」には、中高校の学生に質の高い食育を提供するカフェテリアと、初めての同窓会室に資料展示室を備えることになりました。私は、2006年に鶴沼市民センター内の鶴沼郷土資料展示室で「湘南学園展」を開催し、資料の収蔵を行ったことから、この度の資料室開設のお手伝いを致しました。戦後新たな湘南学園の門出にお迎えした宮下正美園長が、PTAとして復興した父兄会に、共に育てていく学園の経営・教育の指針を開示し、子弟教育の共同体の結束を図る手段に「学園通信」を刊行され、後任の大久保満彦園長にも引き継がれました。これは学園永続のための意思統一に役立つと考え、第一に全巻の復刻とIT (PDF) 収録を致しました。お目通し下さい。

創成期からの施設の変遷と記録を収蔵開示致しましたが、80年の記録は膨大です。是非、皆様の資料提供・整理保存作業へのご協力をお願いする次第です。

発展途上の湘南学園

小泉光一郎

中1967年卒

湘南学園後援会会計監事
相模石油(株) 代表取締役社長



80周年も無事に挙行され、カフェテリアなど教育のみならず食育に着目し実行されたバイタリティは、チーム湘南学園の賜ではないかと、関係された皆様のご努力に感謝申し上げます。20年前、私もPTA会長として、60周年を企画実行致しましたが、当時は200円だった会費を400円に上げ『みずのわ』を4ページから8ページにし、建学精神を再確認する記念誌を発行するなどPTA一丸で取り組んだ事を思い出しました。今回私も式典に参加し、子供たちのハツラツとした姿に感動し、学園も益々発展して行かねばならないと思いました。学校経営のプロフェッショナルとして有能な学園長に是非とも、気持ち良く活動していただき、子供たちの教育環境を良くするためよろしくお願ひしたいと思います。

湘南学園は未だ発展途上にあると思います。

100年先に向かって頑張ってください。

ホームカミング実現への道

土屋真理子

高1966年卒

湘南学園同窓会常任幹事



学園が同窓生を80周年に招待をすると決めたものの、行事準備に手を取られて置き去り状態にありました。会長が見るに見かねて同窓会がお手伝いする事となり、老若男女多くの方に来場頂き、「楽しかった」と思って帰って頂きたいと様々な工夫と取り組みが始まりました。

その陰には、お孫さんのいる様なお歳の方々が学園に日参し、力仕事を含めたこまごまとした作業に汗を流しました。いつか、ケガや体調を崩す方が出るのでないかと心配の日々でした。

多くの同窓生が、快くお手伝い下さり、スタッフの惜しみない努力が実を結び実現の運びとなりました。

また、私個人的には、同窓生の学園への熱い想い、優しさ、暖かさ、同級生の友情に幸せを感じ、実り多い行事となりました。

これからも、学園の仲間とのつながりを大切に、楽しい時を重ねていきたいと思ひます。

湘南学園に期待する！

長谷 章

高1973年卒

神奈川県内科医学会禁煙推進委員会委員長
「禁煙活動を推進する神奈川会議」理事・日本内科学会評議員
藤沢市タバコ対策協議会委員長・日本フードアナリスト協会認定講師
医学博士・総合内科専門医



人生における最も大切なモノは？「健康」ですよ。

我が母校に期待することは、健康を基礎に考え行動できる人間を育てる教育の徹底です。小学校の低学年から徹底した食育教育を行うことや小学校高学年から中学1年くらいまでに防煙教育や性教育を徹底して行うことです。食育教育には食べることの大切さ以外に日本の伝統的な食文化を教えることで日本人としての立ち位置を明確化できます。

防煙教育はFCTCという公衆衛生上の世界初の条約を知ることで世界の中で如何に日本が遅れているかが解ります。

少子高齢化の世の中が加速度的に進む現在です。

将来、世界の中で日本が生き残るためには学識を備え健康の在り方を常に考え世の中のために働くことが出来る人間を育てて頂くことを湘南学園に期待しています。

同窓会の威力示した80周年事業 すばらしい記念事業と結びついて ホームカミングデーが大成功

学園長 仲本正夫

同窓会の威力発揮、80周年事業

チーム湘南学園が3年半かけて取り組んだ一大プロジェクト・創立80周年記念事業は、おかげ様で大成功をおさめることができました。このプロジェクトを通して私は、PTA、同窓会、後援会のそれぞれ大変個性的ですばらしい活躍を目の当たりにして大変感動いたしました。それは、それぞれの団体と団体を構成されておられる皆様に対する確固とした信頼感となって残りました。

振り返るとチーム湘南学園は、4つの団体の個性と役割というものが絶妙に調和しており、いろいろな局面で、それぞれの団体の出番と役割があり、それが大きな方向性を見定め、次第にその力が最終局面に向けて倍加していき、爆発的な威力を発揮したという印象を私は持っています。

創立80周年音楽祭等の大成功

同窓会の皆様には、80周年募金でも絶大な力を発揮していただきましたし、記念行事も、ホームカミングデーも、私の貧弱なイメージをはるかに超える壮大な作品となって出現してきたというような印象でした。

尾高・篠塚両先生のプロデュースによるスタインウェイのピアノを持ち込んだクラシックコンサートや多数の中高生や教職員、保護者まで組み込んだ楽しく見ごたえのあるプログラムづくりをされた平尾先生のチャリティコンサート、卒業生ライブ

コンサートなど、どれをとっても圧巻でした。

この音楽祭のプロデューサーである尾高・篠塚先生や平尾先生や同事務所との連絡調整、18名もの出演者との演奏曲目や紹介等の連絡調整等、複雑な事務局的作用を、一手に引き受けてくださいまして、連日、第2松が岡邸の音楽祭事務所に専従のように通っていただきましたのが同窓会の前川様でした。

同時に、中高ホールのライブやアリーナでの演奏につきましても、同窓会の皆様に大変ご苦勞をいただきました。80周年実行委員会のなかの行事委員会では、同窓会の皆様から様々なプランが続々と提案されて具体化されていきました。

ホームカミングデー成功のために 渾身の力をふるった同窓会

ホームカミングデーでは、藤沢駅からの送迎バスが大好評でしたが、じつは、私はタクシーの方がいいのではないかと考えていました。しかし、渡邊同窓会長は頑として送迎バスだと意思を貫徹されました。

この一事を通して、私は渡邊会長や同窓会のホームカミングデー成功にかける並々ならない意気込みをひしひしと感ずることができました。

8月、学園からのホームカミングデーのご案内（ご招待）には、この送迎バスの運行時間帯もなんとか掲載することができました。

そして、夏の暑い一日、同窓会の皆様が多数集まられて、「SEASIDE」とともにホームカミングデーのご案内を同封していただき、約1万通の発送作業をしていただきました。

同窓会のホームカミングデー成功のためのご提案は、年代別会場設定

や展示会場等様々な点でよく考えられるなあと感嘆するほど知恵と力をつくされたものだったと思います。

卒業生延べ583名がご来校

80周年記念館の完成や記念行事の大成功の中で、ホームカミングデーを迎えることになりました。

ホームカミングデーに、受付を通られた卒業生は11月16日297名、17日286名で、両日で延べ583名に達しました。これに、受付を通らなかった卒業生や11月15日の記念式典への参加者も含めると、約700名にご参加いただくことができたと思われまます。

ご来校いただいた皆様には、音楽祭や同窓生展示会やフリーバザール等の多彩な企画と竣工した同窓会室のある80周年記念館カフェテリアにおける歓迎会などをお楽しみいただくことができまして、皆様とともに創りあげたすばらしい80周年事業と結びついてホームカミングデーは大成功をおさめることができました。

同窓会の皆様には、平尾先生とのコンタクトをとっていただいた高嶋様はじめたくさんの方々には本当にお世話になりましたが、拙文で十分意をつくすことができませんでしたことをお詫び申し上げます。

心に残るすばらしい80周年記念事業の成功は、これからの湘南学園にとりまして、あらたな活力の源泉となっております。

湘南学園に対する物心両面での暖かいご尽力に心から感謝しお礼を申し上げます。

引き続きチーム湘南学園の力を発揮した学園づくりをご一緒に進めてまいりたいと思います。

これからもどうぞよろしくお願い致します。



メダキン会

宮下先生の「お話の時間」に
想いを馳せて

ソーベル永井頼子

高1958年卒

昨年10月11日、私達は32人の懐かしい同窓生と23回目のクラス会を催しました。今は皆74歳、75歳で、学園での生活には想い出を山程持って居られる方々ばかりです。

この会の名称は「メダキン会」。私達2クラスを担当して下さった藤岡先生の「メダカ」、石田先生の「キンギョ」というニックネームに由来しております。

初めて参加して下さった日系アメリカ人のOさんが学園に入学したのは小4の頃。まだ日本は戦後の混沌とした時代が続いており、日本語もよく解らず「君はABCは習わんでよいから、あいうえおを勉強して居なさい」と云われていたそうです。心細くて身の置き場のなかった自分に当時の園長であられた宮下正美先生が優しく接して下さった事が実に有り難く、その様な時に自分の生涯の教訓になったのは先生の週一度の「お話の時間」に伺ったお言葉だった、との事でした。

宮下先生は御自分が若かった頃、日本一の著述家になろうと志していたが今思うと間違いであった。もし、自

分は“世界一”になろうとその時思っていたら今頃は日本一になっていたかも知れないと云われたそうです。これは宮下先生が尊敬しておられた、アフリカ系アメリカ人として初めて立派な教育者として全米に名声を残したBooker Washingtonの努力を見習うようにというお話だったとの事。子供心にも同じ米国人を尊敬しておられた宮下先生のお話を聞きととも自分に誇りを持つ事が出来るようになりました。小さな所で一等賞になって満足してしまうので無く、世界一を目指して努力しなさいと。いいお話です。努力と夢、決して諦めずに大志を抱けという事ですね。

はて？自分にはもう人生の後片付けしか残っていない今、ご近所の長寿ばあさん一番でなく、ギネスブックに載せていただける様な世界一の長寿女性になれる日を目指して頑張る事にいたしましょう……。

ああ、どうなる事やら。



行事予定

□7月5日(土)

2014年度同窓会総会及び懇親会

□10月4日(土)～5日(日)

学園祭と同窓生作品展会

その他、同窓会セミナー等を計画中

学園新人事

小学校校長：榎本勝己

法人事務局長：清水利明

P T A会長：辻 彰彦(理事長兼任)

同窓生の皆さん

2013年、学園創立80周年を機に同窓会室が誕生いたしました。

同窓会活動の拠点として、また学園関係、同窓会関係の資料整理の場として、大きな役割を果たす部屋になるでしょう。

一方で、同窓生の皆さんの憩いの場、旧友との再会の場、同窓生同士の活動の場として有効に利用される事が望ましいと考えます。

どうぞ、同窓生の集まりを計画される時には、お気軽にご利用下さい。

同窓会室開館日時

火・木・土 午前10時～午後4時

注1) 火、木、土が祭日に重なる場合は原則休館となります。

注2) その他の曜日、時間も開館している場合があります。

注3) 夏休み、冬休み、春休み期間中は不定期となります。

お問い合わせや特別に開館を希望される場合は下記へどうぞ。

電話・FAX：0466-29-8669

Eメール：info@shogak-alm.com

SEASIDE Web は、湘南学園同窓会で検索 <http://shogak-doso.org/>